

キーワードは **もしもああしていたら…**

～危ないと思った時に直していれば～



事故の内容	茶葉をトラックに積み込み中左ひじを痛める
事故の原因	雨で重くなっていた収穫物を工場搬入のため急いで積み込もうと無理な姿勢で投げ込もうとして肘が伸びる
けがの状況	左ひじ靭帯損傷

無理な姿勢で作業急ぎ
筋挫傷の事故
七・五ヘクタールの茶畑を経営する男性（30代）が、収穫した茶葉の袋をトラックに積み替える際、投げるように積み込んで腕の靭帯を損傷する事故がありました。工場に急いで搬入しなければならぬ焦りに加え、収穫物が雨の水分で通常約二倍の重さになってきたことによる無理な作業での肘への負担が原因と見られます。男性は二か月の通院治療で保険も適用されましたが、**けがでその後の収穫を断念せざるをえず、対前年比一八〇〇万円**の売上減となりました。

事故によるけがで 一八〇〇万円の 売上減



早めの修理・整備・
機種更新でリスク削減

袋取り方式は収穫物をトラックの荷台に人力で積み上げるため負担が大きく、男性は「コンテナ式の摘採機に替えなければ」と常々考えていました。農作業事故の事例ではこのように「以前から直さなければならぬ」と思っていた「など何らかの異常を感じしているケースが多くあります。「事故ゼロが最大の低コスト」と語るある農業法人の代表は、**繁忙期の終盤や機械の想定使用年数の終了間際に故障や事故が起きやすいことから「先手先手で点検整備や新機種への更新などをしてリスクを削減すること**が重要」と話しています。

事故の教訓と改善策

- ① 日頃の機械点検で異常の発見・修繕に努めるとともに安全装具やアシストスーツなどを着用
- ② リスク軽減の取り組みは計画的に、かつ必要と思ったら速やかに対応

予防と対策

安全装備（緊急停止装置・デッドマン式ラッチ・挟圧防止装置など）が装備された機械を使用

安全鑑定を受け JIS マークが刻印された刈払機、刈刃を使用

刈払機使用時はゴーグルを着け、安全装置（飛散物防護カバー、緊急離脱装置、停止スイッチ、トリガー式スロットルなど）を装備

- ① 斜面・法面での不安定な姿勢による事故
- ② 回転刃の接触、飛散物などによる事故
- ③ 詰まりなどの除去時の事故
- ④ 周辺環境に起因する事故

刈払機事故の特徴

旧式の歩行用トラクターと樹木の間にはさまれ…
三〇年以上前の年式の歩行用トラクターで果樹園の耕うんをしようとした男性（70代）が、後退した際に樹木と機体の間にはさまれ、胸部圧迫と骨折で死亡する事故がありました。当日は家族の帰宅が遅く、翌朝になって発見された時には燃料タンクが空になっており、挟まれた状態のまま燃料が尽きエンジンが止まったものと見られます。事故機は挟圧防止装置やデッドマン式ラッチなどの安全装置が装備されていない機種でした。歩行用トラクターの死亡事故では約八割がはさまれや巻き込まれというデータもあり、専門家は注意を呼びかけています。

旧式の歩行用トラクターと樹木の間にはさまれ…

刈払機のチップが目に飛び込んで…

刈り残した道路わきの草を刈払機で処理しようとした男性（60代）の右目にチップソーのチップが二個飛び込み失明するけがを負いました。短時間で済ませようとゴーグルを未着用だったことに加え、低品質の安価な刈刃を使用していたことが原因と見られます。

安全装置を装備せずに…

刈払機を使って草刈りをしようとした女性（50代）の目にチップソーが飛び込み、病院で異物摘出の処置を受ける事故がありました。慣れた場所で短時間の作業だったため、安全装置を装備していませんでした。

機械の未更新・整備不良などによる事故が多発しています